
恋愛の意味

K I Z U K A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛の意味

【Nコード】

N0190K

【作者名】

KIZUKA

【あらすじ】

お弁当屋さんで働く高校2年生の女の子はやかの恋愛。
はやかは恋愛感が変化していく様子を描いていきます。

序章

「愛してる」

高校生にとってこの言葉に意味はあるのだろうか。

大人にしてみれば、子共が深く考えもせずに発するただの言葉にか聞こえないかもしれない。

でも、はやかにとって彼氏からもらえる最高の言葉としていつも胸にしまっていた・・・。

クリスマスまであと十日。

そんな日に、これまで「愛してる」と言う言葉に世界で・・・とか、一番・・・などの修飾語をつけて気持ちを伝えていてくれた彼が、恋人達にとって一年に一度の最高のイベントの直前に別れを告げてくるなんて思ってもみなかった。しかも理由は「なんとなく・・・」これまでの思い出をぶち壊す一言だった。

高校2年生になった五月からつき合いはじめ、十日後のクリスマスで半年だった。

半年記念も兼ねたクリスマスプレゼントを買うために、夏休みからお弁当屋さんでアルバイトをしていたのに無駄になった・・・いや社会経験をしていると思えば無駄とはいえないかもしれない。しかもプレゼントを買う前で良かった。と、はやかは意外に冷静に別れについて考えていた。

思えば、つき合ってたった半年しかたっていないし、中三の頃からいつもクリスマス前に彼氏にフラれていたのも、今回も・・・と心のどこかでフラれる準備をしていたのかもしれない。

何とも寂しい心になってしまったものだ。そんなことも考えていた。

「あー高2のクリスマスも一人かぁ・・・」はやかはとりあえず口にしてみた。ついでにため息もついてやった。

「まあいつも通りか・・・バイトでもするか。これはやめるのも

考え直すかね」

アルバイトを始めたのはクリスマスプレゼントを買ったためだったので、来月にはやめようと考えていた。

「あぁってか今日バイトだ」はやかは時計を見た。十六時四十五分はじまる十五分前。

「やばーい遅刻する」

アルバイト先のお弁当屋さんは家と学校の中間地点あたりで徒歩で五、六分の所にある。つまり走れば間に合う。

はやかは急いでスウェットのズボンにロンティという部屋着と言ってもおかしくない格好に冬はコートに深い赤のマフラーを着けて行く。

十六時五十分。

「ぎりぎり行けるか」時計を見ながらつぶやいた。

「いつてきまーす」誰もいない家に鍵をかけながら言った。

お弁当屋さんに着き、正面のガラス引き戸を覗くとカウンターでパートの陽子さんが大学生らしき男の人を接客していた。

ガラガラと入り口のガラスの引き戸を開けると「今日もぎりぎりやねー」とイヤミ混じりの冗談口調で陽子さんに言われた。それと同時に大学生らしき男の人もこっちを見て小さく笑った。

一瞬自分の中の時計が止まっているのを感じた。

恋に恋する（前書き）

はやかと加奈がどんな女の子かを徐々に明らかにしていきます

恋に恋する

「おっはよう」学校前の交差点で加奈が声をかけてきた。

「おはよう」

笑顔をつくってみせた。

「なんかいつもと違うじゃん」加奈は期待はずれもいいとこだというような意味を含めた言い方をした。

「なにが」

「なにがって・・・いつも失恋の後は決まっていかに昨日の夜は泣き明かしましたよって顔して来るくせに」

「そうでしたっけ」

「あゝっとぼけるんだ。もう今後はやかの話きいてやんないぞ」

「いやゝごめんそれはカンベンして」

加奈はいつもはやかが泣きながらする失恋話をよしよしと慰めながら聞いてくれる。

加奈とは小学校からの親友でお互いのことは何でも話す。今回の失恋も別れを告げられてすぐ加奈に電話したが、すぐに留守番電話につながり、取り合えず「かあゝなあゝ」とメールなら（泣）と付くようなメッセージを残しておいた。結局加奈からの折り返しがあったのはアルバイト中だったらしく、バイト後に携帯電話を見ると加奈もまた留守電に「どおゝしいたあゝ」と同じ口調（加奈の場合は（笑）を含んでいそうな）でメッセージを残してくれていた。すぐに折り返そうとしたが加奈が今日は塾があるのを思いだしたので、メールで『明日話すね（泣）』とメッセージだけ送っていたのだ。加奈からしてみれば会った瞬間にはやかに「かあゝなあゝ聞いてよお」と泣きつかれると思っていたので、今朝のはやかの反応はまさに期待はずれだった。

はやかは小学生の頃から文武共に人並み以上にできた。特に武（運動）に関しては同じ年の女の子と比べてば抜けており、中学の頃

はバスケットボールの県の選抜メンバーに選ばれるほどだった。そんな経歴を持ちながら高校生になってからは部活にも入らずに勉強に専念しており2年生の2学期の段階では学年10番以内の成績だった。

加奈はなんでもできるはやかが失恋後に自分を頼りにしてくれるのが少しうれしかった。

「それにしてもこんな器量良し代表のはやちゃんをフルなんてねえ。なんて言われてフラれたんだい」

「なんとなくだってさ」

「理由になつてないじゃん。はやかはそれで納得したの」

「よくわからない」

「よくわからないって・・・」

「私好きじゃなかったのかも」

「えっ・・・どういうこと」

「別れを言われた時も、そうなんだとしか思わなかったんだ。これって気持ちが悪かったってことじゃない」

「でもはやかが好きになって告白したんじゃないかったっけ」

「そうなんだけど・・・でも別れを言われる瞬間まで好きって思ってたよ。クリスマスプレゼントも考えてたし」

「なるほどね。はやかはいわゆる『恋に恋して』なんだね」

「何それ」

「つまり恋している自分自身が好きみたい。だから恋が叶ってしまふとその恋は終わりに向かっていくんだよ」

「ふうん」はやかは加奈の言葉に妙に納得してしまった。

なぜなら、はやかは加奈のように表現はできなかったがそうかもしれないと言う感覚は持っていた。それを加奈に言われてなんとなく思っていた事が確信に変わったからだ。

「てことははやちゃんクリスマス暇ってことよね。レディース同士でカラオケでも行こうよ」

「あっごめん。バイト入れちゃった」

「えっ、それでしょ」

恋に恋する（後書き）

感想なんか頂けたらうれしい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0190k/>

恋愛の意味

2010年10月11日20時46分発行